

乃木將軍と水師營

二百三高地の激戦の後、翌年の明治三十八年元旦、ロシア軍の軍使が第三軍司令部を訪れ降伏を申し入れた。

日本軍が攻撃を開始してから百五十五日を費やし、参加人員は累計で約十三万名、その内死傷者は五万九千人に達した。

この、惨状は当然内地にも伝わり、補充される兵士たちも旅順の配属が決まると意気消沈してしまったという。

堤燈行列などの用意をして、「一日千秋」の思いで陥落を待っていた国民の間からも、第三軍に対する非難の声が挙がったと言う。



選奨を祝う乃木大将と幕僚たち。

乃木大将は、二百三高地の戦いで二人の子息を戦死で失った。

後、明治天皇が崩御され、大葬の翌日「御跡慕いて、我は行くなり」の歌を詠んで、夫婦共に自刃したが、この時の胸の中に「その想い」があったに違いないと思うのは、筆者の感傷であらうか。

